

令和6年3月12日

まちづくり委員会資料

公園等における持続的な協働の取組について

建設緑政局

1 概要

(1) 背景・課題

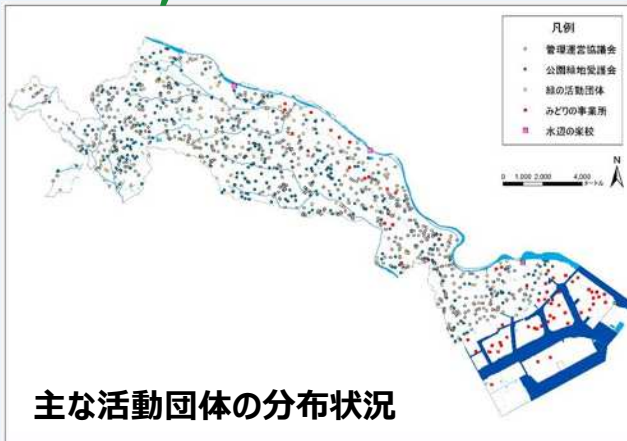
本市では、市民や民間企業等との協働の取組により、公園等の管理運営に関する活動が全市的に広がってきましたが、**活動団体の高齢化や世代交代の停滞の問題が生じているところもあり、活動の持続性が危ぶまれています**。そのため、「協働の取組」を次の世代へと引き継ぎ、更に発展させていくため、**活動の支援を継続することに加え、協働の取組の持続性を確保することが喫緊の課題**です。

また、全国都市緑化かわさきフェアの開催を契機に、身近なみどりへの市民の関心を高めるため、まずは、令和6年度から**施設管理者として、主要な公園の樹木等の管理水準を引き上げるとともに、持続可能な管理・運営に向けた検討等を進めます**。また、**公園の担い手等に対する中間支援を試行的に導入し、「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園」を実現**してまいります。

■市内の協働の取組の状況

川崎市公園緑地の数

1,280 [R4]



管理運営協議会・
公園緑地愛護会の数

920 [R4]



■市内の管理運営協議会等へのアンケートの結果（R3年度実施）

・会員の年齢構成について



・活動している上での課題はありますか？（複数回答可）

74%の団体が会員の高齢化を課題としている



■公園等における樹木の維持管理水準の現状



名称	平成28(2016)年度 (緑の基本計画策定時)	令和4(2022)年度末	比較
管理運営協議会	541公園	581公園	+40公園
公園緑地愛護会	340公園	339公園	-1公園
街路樹等愛護会	1186ブロック	1096ブロック	-110ブロック
緑の活動団体	254団体	267団体	+13団体
水辺の楽校	3地区	3地区	-
川崎市みどりの事業所の 推進に関する協定	67 事業所	62 事業所	-5 事業所

2 「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園」

（１）「公園管理者」×「市民」によりみんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園へ

これまでの協働の取組の多くについては、管理者主体で取組を進めてきましたが、持続的な管理運営を目指すためには、より多くの市民に係わっていただき、新たな担い手を増やす取組が必要になっているため、「市民等のしたい」が実現しやすく、「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園」を目指します。

管理者の「してほしい」を実現

公園等



花を植えて欲しい

利用してほしい

草刈りをしてほしい

清掃してほしい

現状イメージ

「市民等のしたい」を実現

学習したい

緑を守りたい

交流したい

イベントしたい

色々育みたい

目指すべき活動イメージ

（２）「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園」の実現に向けた取組イメージ

市は、①活動支援の拡充として、「公園イドバタカフェ」の開催や「SNS」を活用した人材の発掘、人のつながりづくりとニーズの把握を行い、「市民等のしたい」を実現します。また、「市民等のしたい」を実現した利活用の事例を②「プログラム」としてまとめ、併せて③制度やルールの見直し等を進め、運用できる仕組みを構築します。①～③の取組を一体的に進めることで、誰もが公園を利活用しやすく、「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園」の実現を目指します。

1 活動支援の拡充

- 活動の担い手の発掘、連携、支援、調整等を担う新たな支援の検討



公園でイドバタカフェ



SNS活用

2 プログラムづくりと仕組みづくり

- 「市民等のしたい」を実現した利活用について必要な手順、準備するもの、注意事項、費用等についてプログラムとしてとりまとめる。
- プログラムについては、誰もが知ることができるよう、冊子、HP、SNS等で発信する。

3 制度やルールの見直し

- 「市民等のしたい」を実現する際に、ハードルとなった制度やルールについては、実施にあたって必要な手順や注意事項を整理
- 許認可する際の手順等を整理
- 初めての取組については、中間支援することで、実施方法を検証する

（3）仕組みづくりに向けて参考とした公園の地域化等に向けた取組と分かった視点

公園の地域化等に向けた取組として、各局区が公園をフィールドとしたイベント等を実施しており、これらの取組の成果や課題から分かった視点として7項目を整理しました。

■公園の地域化等に向けた取組事例

区・局	川崎 (フェアを通じた協働の取組)	幸 (車座集会)	宮前 (地域デザイン会議)	多摩 (車座集会つながり)	麻生 (地域デザイン会議)	建設緑政局 (大師公園)
写真						
目的	フェアに向けた機運醸成	地域の活性化（新たな担い手）	コミュニティ形成	コミュニティ形成	コミュニティ形成	「市民のしたい」を実現
テーマ	世代を緑でつなぐ	公園を活用した地域の活性化	みどり×落ち葉	多世代交流	美化活動×イベント	公園を使いこなす
参加対象	・既存活動団体 ・学生	・既存活動団体 ・町内会 ・小学校・保育園	・地域デザイン会議参加者 ・公園利用者	・既存活動団体 ・カリタス女子中学高等学校 ・公園利用者	地元団体 企業市民 市民団体	市内在住 市内で活動している 団体・企業
人材発掘のきっかけ	・ボランティア活動を行う学校への声掛け	・町会に相談	・農フォーラムを公園に誘導	・カリタス学園が提案	・関係団体を公園に誘致	・区内で活躍する団体等を誘致
公園×〇〇を通じて地域の人の発掘が可能①⑥						
成果	－ (実施中のため未掲載)	・(利活用できることを知る＝活動団体が発足)①⑥	・公園＝コミュニティ形成の場③ ・落ち葉活用体験＝学び、清掃、遊び等を一貫して体験②	・公園＝学生でも地域コミュニティ活性化のためにできることが身近にある(気づき)①⑤	・公園＝団体や個人との交流の場③ ・公園がこうした活動で維持されていることを知るきっかけ①③	・市民主体で利活用が可能①②
課題	－ (実施中のため未掲載)	・(スピード感のある対応)④ ・(横展開にはマニュアルがあるといい)②	・堆肥作りとその活用 ・行政負担なく継続できるモデルや仕組み②⑤⑥⑦	・交流を絶やすことなく定期的に実施できる仕組みや人材②⑤	・学生も含め、参加したくなるような情報発信や手法①③⑤ ・ボランティア証明書の発行⑤	・ワンストップ窓口があるとよい④ ・利活用するためのわかりやすいマニュアル②
・各取組の共有が不十分①③ ・持続性の確保①②④⑤⑦ ・けん引する担い手が必要⑥⑦						

上記から、分かった視点

- ①情報等の共有の必要性 ②維持管理と利活用のマニュアル(プログラム)の必要性 ③参加したくなる情報発信
④わかりやすい窓口と対応 ⑤公園における新たな活動制度の必要性 ⑥担い手づくりに向けた新たなアプローチ体制 ⑦中間支援



①～⑦は、既存制度にかかる部分もあるが、持続的な協働の取組に向けては、新たな川崎らしい仕組みの再構築が必要

持続的な公園の管理運営の新しい仕組みの構築に向けて、公園×〇〇を通じて、活動が途絶えた公園などにアプローチ・支援する実証実験を実施

（４）新たな仕組みづくりに向けた実証実験

実証実験の対象公園については、北部３区（宮前区・多摩区・麻生区）から、公園緑地愛護会や管理運営協議会が最近（過去３年程度）解散した公園を抽出し、公園や周辺地域の特性等を踏まえ、３か所を選定しました。

実験のねらいについては、神木三本松公園が、公園における新たな活動制度作りの構築、生田南大作公園と王禅寺北第６公園は新たな担い手探しと必要な支援内容の整理等として実施します。

■ 実証実験の対象公園

名称		神木三本松公園	生田南大作公園	王禅寺北第6公園
概要	住所	宮前区神木本町5丁目20-17	多摩区西生田4丁目3-13	麻生区王禅寺西4丁目5-1
	面積	200㎡	238㎡	981㎡
	既存団体	R4.9.30 管理運営協議会廃止	R2.7.18 公園緑地愛護会廃止	R5.3.31 公園緑地愛護会廃止
	理由	高齢化	担い手不足（ボランティア転居等）	高齢化
選定理由	公園緑地愛護会や管理運営協議会が最近（過去3年程度）解散した公園			
	- 狭小な提供公園（市内に多数存在） - 協議会が廃止後も、<u>少人数で花壇活動を行っており、安心して持続的に活動してもらいたい。</u>	- マンションの提供公園（市内に多数存在） 「<u>地域に担い手候補がいない公園</u>」の象徴的公園	- 一定規模の提供公園（市内に多数存在） - 活動を継続したい住民が存在するが、<u>公園面積が比較的広く、管理に課題がある公園</u>	
現状	個人が花壇活動や清掃を行っており、<u>きれいな状態に保たれている。</u>	- 公園に雑草が茂っているなど、<u>管理しきれていない。</u> - 現地調査の際は、<u>公園を利用している人は皆無</u>	- 高齢化により愛護会は廃止されたが、<u>個人として活動を継続したい意向を持った住民が存在</u> <u>ダスト広場が草地広場になっている</u>	
現地写真 対象公園				
実験内容	<u>少人数で活動している方々の意見を踏まえ、気軽に活動できる新しい活動制度を視野に、申請や支援方法の整理等。</u>	近隣住民にチラシを配布するとともに、通りかかった市民にも積極的に声をかけ、<u>イデバタ会議形式で公園について意見交換。</u>	<u>担い手の拡充と機械工具の活用も含めた支援内容の整理等。</u>	
地域に根差した人材候補	<u>少人数で花壇ボランティアを続ける住民</u>	<u>隣接のマンション、地域住民、地域のボランティア団体など</u>	<u>少人数で活動を継続している住民、子育て世代、地域のボランティア団体など</u>	
実験のねらい	<u>公園における新たな活動制度づくり(少人数制)</u> (公園における花壇活動の整理（清掃・花植え）)	<u>担い手づくりに向けた新たなアプローチ手法、楽しいボランティアの活動内容</u>	<u>担い手づくりに向けた新たなアプローチ手法、支援の強化（機械工具の貸し出しや講習会の開催等）</u>	

3 実証実験の状況

新たな担い手発掘に向けた取組として、公園内にカフェテーブルとイスを数セット用意し、**イドバタ会議形式で、来園者と「公園でしたいこと」について意見交換を行います。意見を踏まえた、楽しく参加できる活動を通じて、ボランティア活動への参加も促し、持続的な活動となるように支援（中間支援機能）してまいります。**

①生田南大作公園イドバタカフェの開催

日時：2024年2月18日（日）、27日（火）
10:00-14:00

※19日は雨天中止のため、27日に振替実施

場所：生田南大作公園

参加者数：52名(18日40名、27日12名)（隣接マンション住民、近隣住民、区内プレーパーク団体、緑や環境の保全活動を行う団体、子ども食堂運営者など）

参加のきっかけ：現地ポスターやポスティング、区内の生涯学習関係のイベント時のつながり、SNS等



②公園でやりたいこと

- ・コロナで人と話す機会が無かったから公園で交流したい
- ・掃除くらいならやりたい
- ・月1回くらい活動するのは参加しやすい
- ・花を植えたい、きれいにしたい
- ・コミュニティは、きっかけが無いと生まれない。公園を活用したコミュニティづくりに参加したい。
- ・若い世代は、自己実現への意識や意欲が高い



③取組イメージ



【シャボン玉遊び、ごみ拾い、車止めペンキ塗り体験等】



シャボン玉遊び

ペンキ塗り体験

「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園」へ
新たな協働の取組が芽生え、

4 今後の取組

公園等における持続的な協働の取組に向けて、公園の地域化に向けた取組や実証実験を踏まえ、各取組内容の蓄積やノウハウの共有・支援など、建設緑政局が横断的な役割を担うとともに、関連する施策との関係性も踏まえ取組を推進するため、関係局・区と連携・調整を行い、既存制度を再構築し、新たな支援内容・体制を整えてまいります。

【これから】

公が受身でなく、地域の特徴を捉えた「公園×〇〇」を仕掛け、知って・関わって・好きになってもらい、活動につなげていく
それを本市の公園運営の「新たな仕組み」の一つとして、周知・展開・浸透させ、
「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園」を実現

ねらい

- | | | |
|---------------------|------------------------|--------------------------|
| 1 公園でできることを知ってもらう | → 気づき「こんなことができるんだ」 | → 変化「身近な公園でできるかも」へ |
| 2 公園の愛護活動等を知ってもらう | → 気づき「こうして管理されていたんだ」 | → 変化「何かしたい」へ |
| 3 実際にやっていることを知ってもらう | → 気づき「そんなことをやっているんだ」 | → 変化「自分達もできるかも・やってみるか」へ |
| 4 関わって、体験・感じてもらう | → 気づき「楽しい・心地よい・苦労を知った」 | → 変化「またやろう・やりたい」「何かしたい」へ |

・持続的な仕組みをつくる ・市内に広げる

公園等における持続的な協働に向けた「新たな仕組み」の再構築（案）イメージ

～仕組み作りのポイント～

周知

- ・ 市民が、利活用できることを知っている
- ・ 市民が、公園管理の実態を知っている

支援

- ・ 持続的・安定的に、支援が続く

情報やノウハウ
の共有・蓄積

- ・ いい事例が、共有されている
- ・ いい事例のノウハウが、蓄積されている

窓口

- ・ 公園緑地について、気軽に相談できる
- ・ 公園緑地に、気軽に参加できる

～具体的取組～

- ・ ①公園緑地に関する積極的な広報・PR

- ・ ②担い手づくりの新たなアプローチの体制を整備
- ・ ③活動における中間支援

- ・ ④新たな連絡会や交流会による共有・意見交換
- ・ ⑤プログラム整備等によるノウハウの見える化・共有・蓄積

- ・ ⑥明確な相談窓口の設置と周知
- ・ ⑦少人数でも活動できる柔軟なボランティア制度

意見・課題
等を踏まえた
見直し

意見・課題等
の把握

一体的に運用することで持続的な取組に

5 スケジュール

令和6年2月から宮前区、多摩区、麻生区、幸区、中原区、高津区において、新たな仕組みづくりに向けた担い手探しや実証実験等を実施し、「新たな制度」「中間支援機能」の素案を取りまとめてまいります。また、素案をもとに、中間支援機能の試行実施を踏まえ、令和7年度に新たな仕組みの本格運用を目指してまいります。

